

広報 市民リポーター



三浦リポーター

農業廃棄物による

環境問題について

リポーター 三浦光子さん（上代野）

廃棄物の処理および清掃に関する法律の改正により、農業用使用済みのビニール類が産業廃棄物として取り扱われることになり、農家自らの責任で適正に処理しなければならなくなりました。これまでに農家は肥料袋や農業用廃ビニール類等の処分については、ほとんど野焼きにしたり、畑の隅に放置している状況でありました。しかし、法律の改正により野焼きができなくなるとともに、煙や灰の中にも、高い濃度のダイオキシンが含まれていることが判明しました。JAあきた北女性部では二年前からJAあきた北役職員と語る会で農業用廃棄物を回収していただきたい旨を要望していたところ、本年六月から回収が行われました。

回収現場を訪ねて

大館地区の農業廃棄物の回収は六月二十二日にJAあきた北配送センターで行われました。農家の人たちがトラックに積んできた農業廃棄物を計量器で計り、処理費



集められた使用済みビニールなどの農業廃棄物

と運搬料を書いた計算書を渡していました。処理料は一キログラム当たり三十円、運搬料は一キログラム当たり十円。運搬料のうち半分は自己負担で、残りの半分はJAが助成することです。今回の収集量は十六名で千六百六十キログラムでありました。

廃棄物処理場を訪ねて

を訪ねて

七月二十八日、塩化ビニール類を中心に廃棄物の処理を行っている同和クリンテックス株式会社（片岡総務課長さんと米沢主任さんからお話を伺いながら、ビデオで中間処理システムを見せていただきました。その後、中間処理システムの工場を案内していただき、設備とパンプレットを照らし合わせながら説明していただきました。ここでは、一般家庭から分別収集

された廃棄物や農業用廃棄物などを破砕機で細かく砕いて燃えやすいものと燃えにくいものをブレンドして焼却するそうです。燃えやすいものはばかりだと高温になり、焼却炉の痛みが早くなるからとのことでした。一般家庭から分別収集された廃棄物の中には車のバッテリーや鉄の棒などが入っていました。今回はありませんでしたが、スプレー缶が入っていると、もあり、ガスが残っていると大変危険だそうです。「私ひとりだけなら」「自分さえ良ければ」の考えは絶対にやめてほしいと思います。廃棄物の焼却は八〇〇度から一、〇〇〇度までの温度の違う三つの焼却炉で行い、焼却に伴う排ガスは冷却塔で一〇〇度まで急冷することにより、ダイオキシン類の再合成を防止するそうです。その後二段階の洗浄塔で苛性ソーダにより洗浄し、湿式電気集塵機でちりを取り除いてから大気に放出するので、ダイオキシンの濃度は国の規定基準〇・八ピコグラムを大幅に下回っているとのことでした。そのお話を聞いて安心して同和クリンテックスを後にしました。



片岡総務課長(右)から話を伺う三浦リポーター

皆さんが何気なしに出しているごみは、いろいろな設備と多大な労力によって安心できるものに変えられています。ごみを出すときはしっかりと分別し、容器はきれいに洗うように心がけたいものです。また、私たちがよりよい生活環境の中で快適な毎日を過ごせるように願いたいと思います。最後に、今回の取材に当たり、ご協力をいただきました皆様方から感謝申し上げます。



塩ビごみはここで砕いてから燃やされる